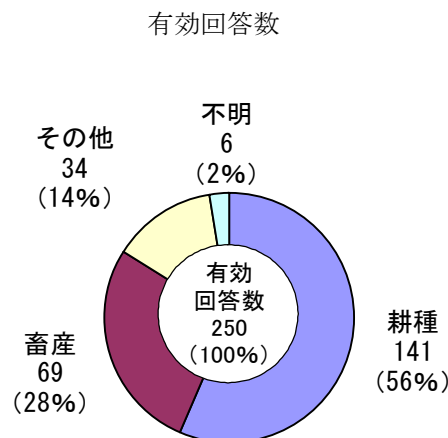


平成 18 年度 農業法人 短期 動向 調査 結果 について

(社) 日本 農業 法人 協会
農 林 漁 業 金 融 公 庫

1 調査 要 領

- (1) 調査 時期 : 平成 18 年 11 月 2 日 ~ 12 月 11 日
- (2) 調査 内容 : 収 支 実 績、経 営 見 通 し 等 の 変 化 方 向 と 設 備 投 資 の 意 向
- (3) 調査 方法 : F A X に よ る 送 付 ・ 回 収
- (4) 調査 対 象 : (社) 日 本 農 業 法 人 協 会 会 員 1, 703 先
- (5) 回 収 数 : 250 先^(注) (回 収 率 14. 7%)
(注) 設 問 に 対 し て 1 間 で も 回 答 の あ っ た 先 を 含 む 値。
- (6) 回 答 状 況 等



(7) 部門 分類

耕種部門 (141)	稲作 (43), 畑作 (2), 露地野菜 (16), 施設野菜 (25), 施設花き (19), 茶 (9), きのこと (8), 果樹 (10), その他耕種 (9)
畜産部門 (69)	酪農 (10), 肉用牛 (14), 養豚 (22), ブロイラー (4), 採卵鶏 (18), その他畜産 (1)
その他 (34)	販売 (16), 加工 (8), 観光・交流 (4), 飲食 (2), その他 (4)

(注 1) 売上第 1 位部門により、耕種、畜産、その他の三部門に分類
(注 2) () 内は有効回答数

(8) 売上 規 模 別 回 答 割 合

18 年度	(単位: %)								
	2 千万円 未 満	2 千万 ~ 5 千万円	5 千万 ~ 1 億 円	1 億 ~ 2 億 円	2 億 ~ 5 億 円	5 億 ~ 10 億 円	10 億 ~ 20 億 円	20 億 円 以 上	
全 体 (n=222)	5.0	15.3	18.0	25.2	20.7	8.1	6.3	1.4	
耕 種 (n=126)	6.3	24.6	23.0	23.8	13.5	6.3	2.4	-	
畜 産 (n=64)	1.6	3.1	7.8	31.3	26.6	14.1	12.5	3.1	
そ の 他 (n=32)	6.3	3.1	18.8	18.8	37.5	3.1	9.4	3.1	

2 調査結果

(1) 景況感（平成 18 年度上半期について）

◆平成 18 年度上半期の景況 DI は、調査先全体では▲0.6 とマイナスに転じた。部門別にみると耕種部門は前年に引続きマイナス、畜産部門は後退するもプラスを維持、その他部門（加工・販売等）はプラスを維持した。

稲作では販売価格の低迷から収支 DI 及び資金繰り DI とともに悪化し、景況 DI は▲19.6 と引続きマイナスで推移した。養豚では米国産牛肉の輸入停止等による代替需要から、前年に引続き価格が堅調に推移したため景況 DI は 27.3 と引続きプラスとなった。採卵鶏では前年度上半期の価格が堅調であった反動で収支実績が悪化したと見られ、景況 DI は▲0.1 とマイナスに転じた。

◆見通し DI は、稲作と酪農がマイナスとなったが、全体では 10.1 とプラスとなった。

（注 1）DI とは、「良くなった」と回答した割合から「悪くなった」と回答した割合を差し引いた値で、個々の経営者の判断を集計して業況を指標化したもの。

（注 2）景況 DI は、収支 DI、資金繰り DI、時間的ゆとり DI の平均値。

図表 1 景況天気図（17 年度上半期から 18 年度上半期への推移）

部門	景況DI		収支DI		資金繰りDI		時間的ゆとりDI		今後の見通しDI	
	17年	→ 18年	17年	→ 18年	17年	→ 18年	17年	→ 18年	17年	→ 18年
全体		⇒		⇒		⇒		⇒		⇒
耕種		⇒		⇒		⇒		⇒		⇒
うち 稲作		⇒		⇒		⇒		⇒		⇒
畜産		⇒		⇒		⇒		⇒		⇒
その他 (加工・販売等)		⇒		⇒		⇒		⇒		⇒

（注 1）DI の値とお天気マークの関係： ≤ -50 < ≤ -20 < ≤ -5 < ≤ 5 < ≤ 20 <

（注 2）景況DIは、収支、資金繰り、時間的ゆとりの各DIの平均値です。

図表 2 景況 DI

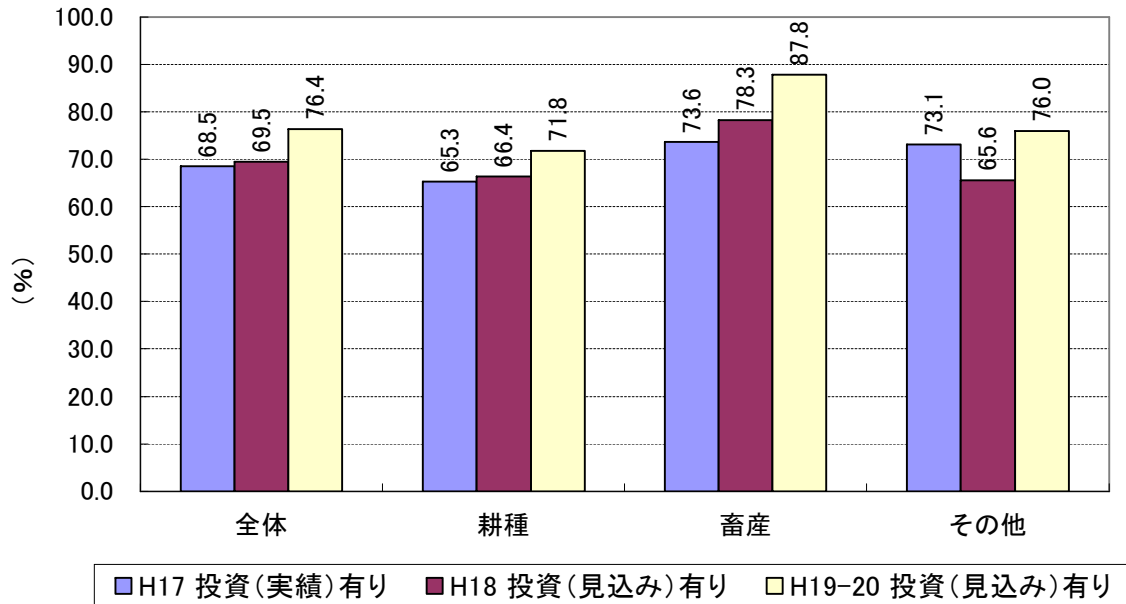
部門	景況DI				販売価格DI	生産コストDI	今後の見通しDI							
	17年	→ 18年	17年	→ 18年										
全体	1.1	→ ▲0.6	11.6	→ 5.4	1.5	→ 3.3	▲9.8	→ ▲10.5	▲20.8	→ ▲20.1	▲19.9	→ ▲33.4	17.8	→ 10.1
耕種	▲11.1	→ ▲7.2	▲5.7	→ 1.5	▲10.9	→ ▲5.7	▲16.5	→ ▲17.4	▲45.3	→ ▲28.0	▲20.9	→ ▲34.1	10.6	→ 2.2
稲作	▲18.7	→ ▲19.6	▲12.3	→ ▲17.5	▲16.9	→ ▲21.9	▲27.0	→ ▲19.5	▲46.9	→ ▲58.6	▲18.5	→ ▲22.5	1.6	→ ▲37.5
畜産	20.4	→ 6.5	37.6	→ 1.5	21.6	→ 14.9	2.0	→ 3.0	24.8	→ ▲7.6	▲18.6	→ ▲41.7	24.0	→ 13.6
酪農	7.9	→ ▲13.3	9.5	→ ▲10.0	4.8	→ ▲10.0	9.5	→ ▲20.0	▲15.0	→ ▲70.0	0.0	→ ▲40.0	30.0	→ ▲10.0
養豚	22.1	→ 27.3	28.5	→ 27.3	24.1	→ 27.3	13.8	→ 27.3	31.0	→ 18.2	▲40.7	→ ▲40.7	25.0	→ 22.7
採卵鶏	37.2	→ ▲0.1	69.3	→ ▲5.9	53.8	→ 11.8	▲11.5	→ ▲6.2	42.3	→ ▲31.3	4.0	→ ▲27.3	30.8	→ 6.2
その他(加工・販売等)	9.1	→ 8.0	27.3	→ 29.4	8.7	→ 18.2	▲8.7	→ ▲8.8	▲18.2	→ ▲11.8	▲18.2	→ ▲18.2	34.1	→ 35.3

(2) 設備投資

① 設備投資の有無

- ◆平成17年度に設備投資を行った経営は全体で68.5%であり、今後設備投資を行う予定のある経営は平成18年度70%、平成19-20年度76%と堅調な推移を示している。なお、平成18年度の設備投資意向を部門別で見ると耕種部門(66%)、畜産部門(78%)、その他(加工・販売等)(66%)であった。

図表3 設備投資有りとは回答した割合



(単位 %)

	H17(実績) (A)	H18(見込み) (B)	H19-20(見込み) (C)	(B)-(A)	(C)-(A)
全体	68.5	69.5	76.4	1.0	7.9
部 耕種	65.3	66.4	71.8	1.1	6.5
門 畜産	73.6	78.3	87.8	4.7	14.2
その他	73.1	65.6	76.0	▲ 7.5	2.9

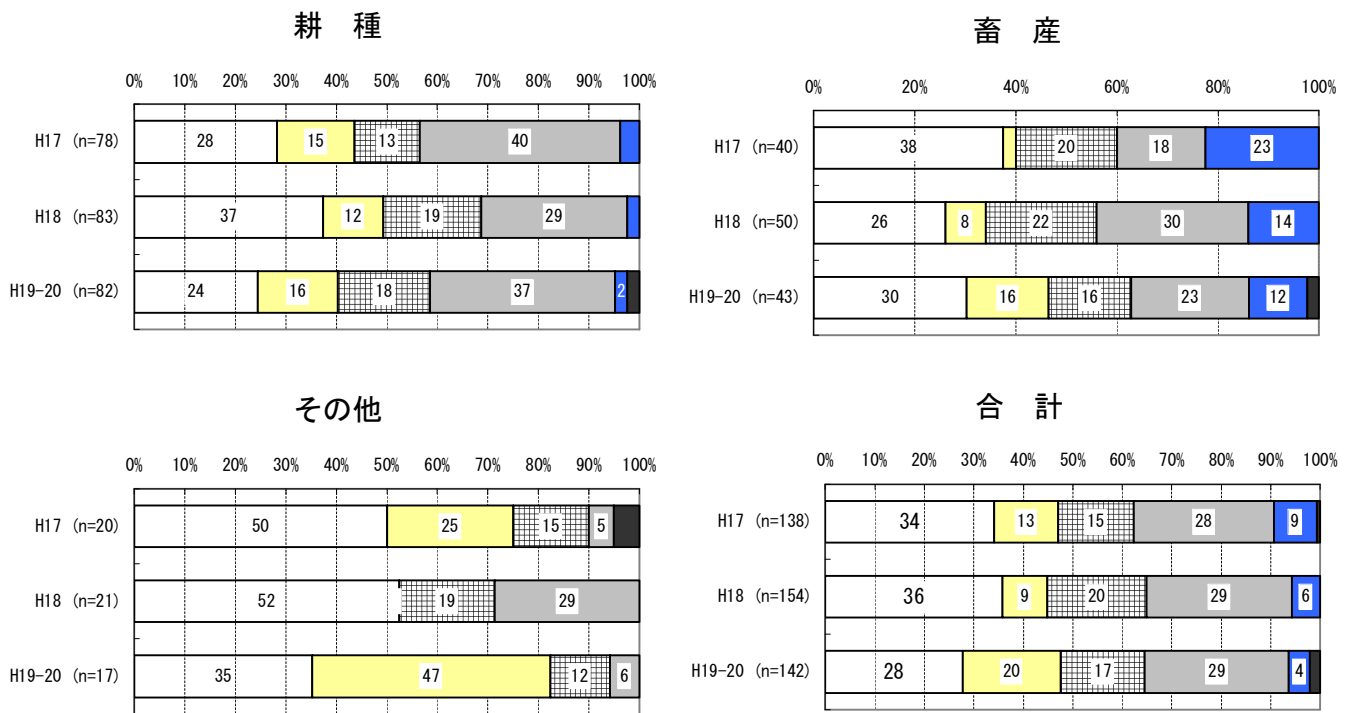
(参考) 有効回答数

	H17 (実績)		H18 (見込み)		H19-20 (見込み)	
	有効回答数	うち投資有	有効回答数	うち投資有	有効回答数	うち投資有
合計	200	137	220	153	191	146
耕種	121	79	128	85	117	84
畜産	53	39	60	47	49	43
加工・販売等	26	19	32	21	25	19

② 設備投資の目的（優先順位第1位のものについて）

- ◆設備投資の目的についてみると、耕種部門では、平成17年度実績で更新・維持・補修（40%）が最も多い。今後の見込みでは、平成18年度は既存部門の増産・規模拡大が最も多いが、平成19-20は再び更新・維持・補修が37%と多くなる。
- ◆畜産部門では、平成17年度実績で既存部門の増産・規模拡大（38%）が多いが、今後の見込みでは、増産・規模拡大割合が減少する一方で、更新・維持・補修が増加している。また、新規部門の導入が増加傾向にある。
- ◆その他（加工・販売等）では、平成17年度実績で既存部門の増産・規模拡大（50%）に次いで新規部門の導入（25%）と前向き投資が多い。今後の見込みでも平成19-20は前向き投資（既存部門の増産・規模拡大+新規部門の導入）が多く、8割以上を占める。

図表4 設備投資の目的（実績および今後の見込み）

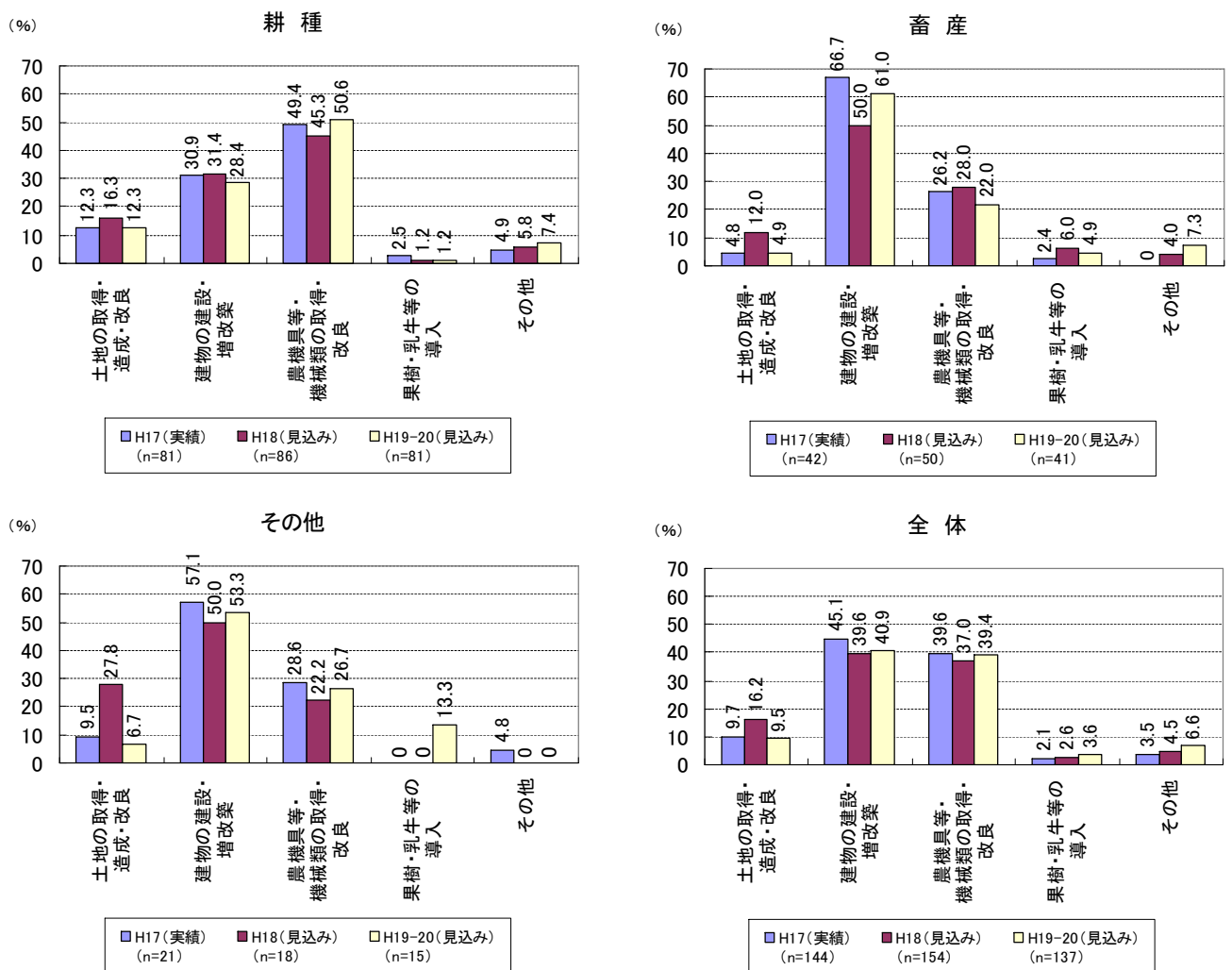


既存部門の増産・規模拡大 新規部門の導入 合理化・省力化
 更新・維持・補修 環境対策 その他

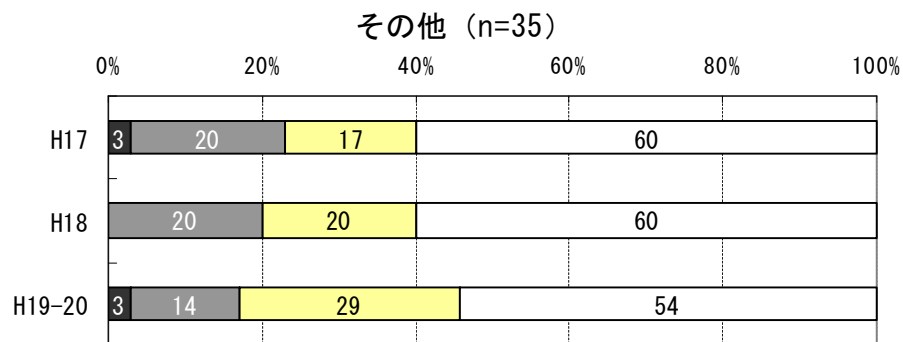
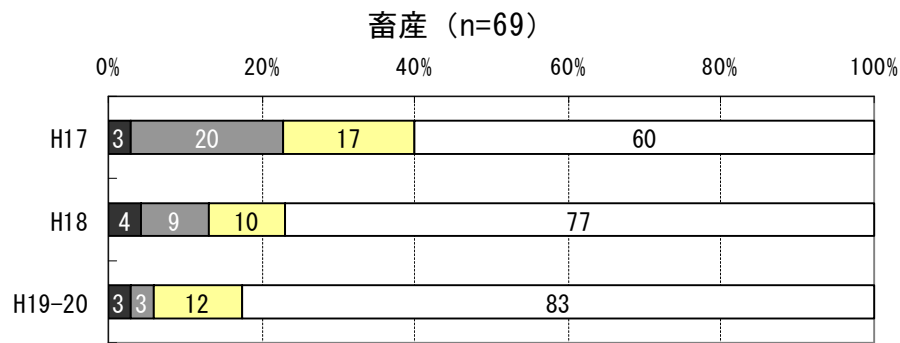
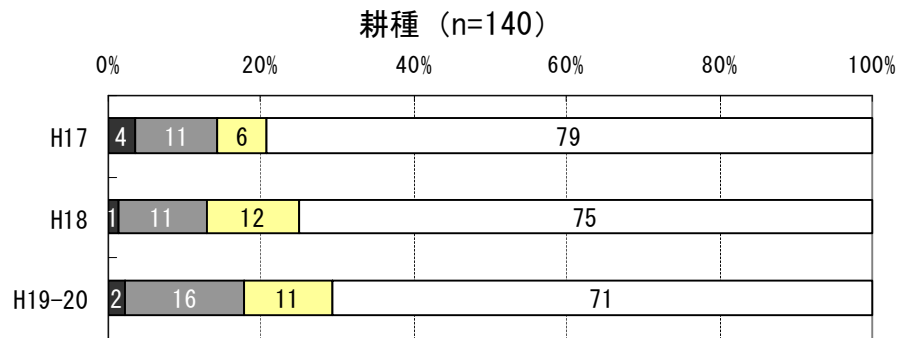
③ 設備投資の内容（金額第1位のものについて）

- ◆設備投資の内容についてみると、17年度実績は、耕種部門は農機具等機械関連投資（49%）、畜産部門及びその他（加工・販売等）は建物関連投資（同67%及び57%）の割合が大きい。
- ◆トレーサビリティ、農産加工、販売・流通に対する取り組みについてみると、耕種部門では畜産部門に比べて農産加工への取組み意向が高くなっている。

図表5 設備投資内容の割合（実績と意向の比較）



図表6 特別な取り組み（トレーサビリティ、農産加工、販売・流通）



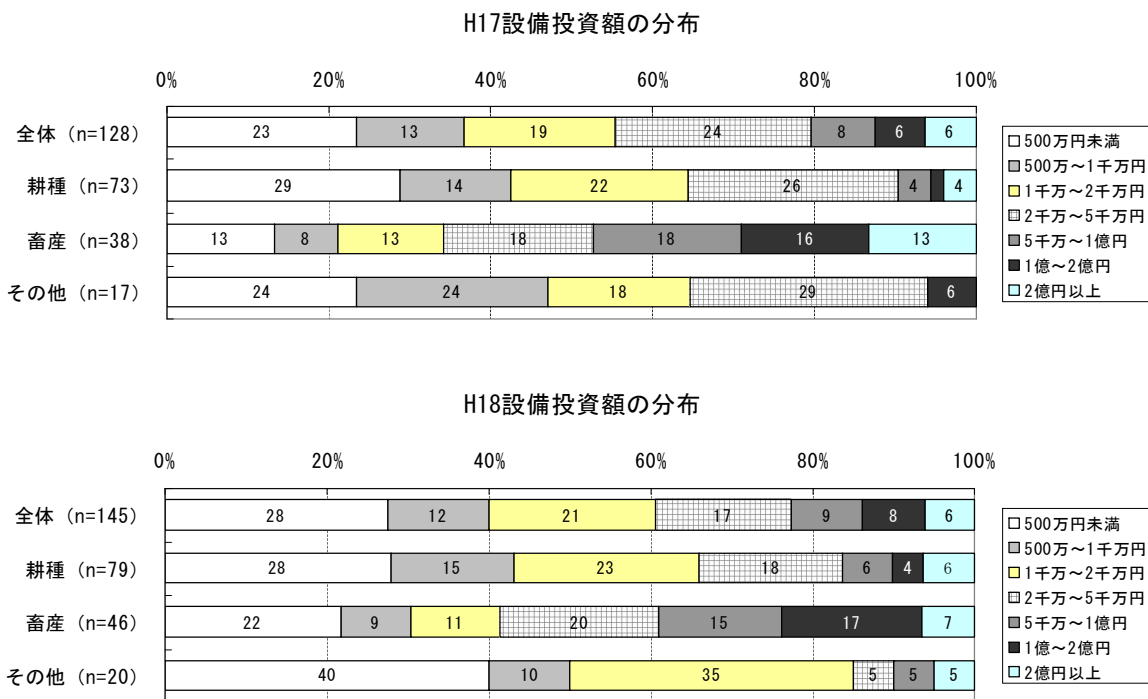
トレーサビリティ関連
 農産加工
 販売・流通
 不明

④ 設備投資額

◆1先当たりの平均設備投資額は大型の設備投資に左右される部分があるが、耕種部門では3,554万円（H17実績）から3,533万円（H18見込み）と横ばい。畜産部門では8,837万円（H17実績）から6,052万円（H18見込み）に減少。加工・販売等部門では2,105万円（H17実績）から7,932万円（H18見込み）に増加した。

◆H18年度の投資額の分布をみると、耕種部門では1,000万円未満の割合が43%、5,000万円以上の割合が14%であった。畜産部門では1,000万円未満の割合が31%、5,000万円以上の割合は39%となっている。加工・販売等部門では1,000万円未満の割合が50%、5,000万円以上が10%を占める。

図表7 設備投資額の分布













































図表8 平均設備投資額

	(単位 万円)					
	H17 (実績)			H18 (意向)		
	先数	平均値	中央値	先数	平均値	中央値
全体	128	4,907		145	4,903	
耕種	73	3,554	1,000	79	3,533	1,000
畜産	38	8,837	2,900	46	6,052	2,350
加工・販売等	17	2,105	1,000	20	7,932	600

(注) 先数は有効回答者数

(参考) 景況天気図

部門	17年上半期から18年上半期への推移								販売価格DI		生産コストDI		今後の見通しDI	
	景況DI		収支DI		資金繰りDI		時間的ゆとりDI		17年	18年	17年	18年	17年	18年
	17年	18年	17年	18年	17年	18年	17年	18年	17年	18年	17年	18年	17年	18年
全体	 ⇒ 	 ⇒ 	 ⇒ 	 ⇒ 	 ⇒ 	 ⇒ 	 ⇒ 	 ⇒ 	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒
耕種	 ⇒ 	 ⇒ 	 ⇒ 	 ⇒ 	 ⇒ 	 ⇒ 	 ⇒ 	 ⇒ 	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒
うち 稲作	 ⇒ 	 ⇒ 	 ⇒ 	 ⇒ 	 ⇒ 	 ⇒ 	 ⇒ 	 ⇒ 	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒
畜産	 ⇒ 	 ⇒ 	 ⇒ 	 ⇒ 	 ⇒ 	 ⇒ 	 ⇒ 	 ⇒ 	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒
うち 酪農	 ⇒ 	 ⇒ 	 ⇒ 	 ⇒ 	 ⇒ 	 ⇒ 	 ⇒ 	 ⇒ 	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒
うち 養豚	 ⇒ 	 ⇒ 	 ⇒ 	 ⇒ 	 ⇒ 	 ⇒ 	 ⇒ 	 ⇒ 	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒
うち 採卵鶏	 ⇒ 	 ⇒ 	 ⇒ 	 ⇒ 	 ⇒ 	 ⇒ 	 ⇒ 	 ⇒ 	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒
その他 (加工・販売等)	 ⇒ 	 ⇒ 	 ⇒ 	 ⇒ 	 ⇒ 	 ⇒ 	 ⇒ 	 ⇒ 	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒

(注1) DIの値とお天気マークの関係： ≤ -50 <  ≤ -20 <  ≤ -5 <  ≤ 5 <  ≤ 20 < 

(注2) 景況DIは、収支、資金繰り、時間的ゆとりの各DIの平均値です。